

赤トンボ復活プロジェクト ～休耕田を活用した水田生態系の復元～

新井悠斗・川上和磨・小堀ひなた・西村彩花・堀口隼靖 (県立龍野高校課題研究赤トンボ班)

はじめに

たつの市は童謡「赤とんぼ」の里として知られている。しかし近年「赤とんぼ」アキアカネは全国的に減少しており、たつの市も例外ではない。

高校生の力でアキアカネの群舞を復活させる一方で、水田生態系の復元を試み、地域の生物多様性の保全に貢献したいと考えた。



図1 アキアカネ

調査方法

- ① 棚田の休耕田を活用した、ビオトープをつくった。
ビオトープは休耕田の畔下を中心に、掘り上げて水がたまるようにした。
- ② 掘り上げたところと、処置しなかったところを比較しながら、動物や植物の調査を行った。
- ③ 秋涼しくなったころに、アキアカネが飛来しているか、トンボを中心に調査をおこなった。

結果と考察

- ① 植物に関しては、掘り上げたことによる植被率の差は確認できたが、種の多様性については水の貯まっていない場所とあまり変化がなかった。
- ② 動物に関しては、水がたまるようになると急速にいろいろな種類が確認できるようになった。例として、アカハライモリ・ヌマガエル・シュレーゲルアオガエル・アメリカザリガニ・マツモムシ・コシマゲンゴロウ・ハイロゲンゴロウ・小型のガムシ類、ヤゴなどが確認できた。

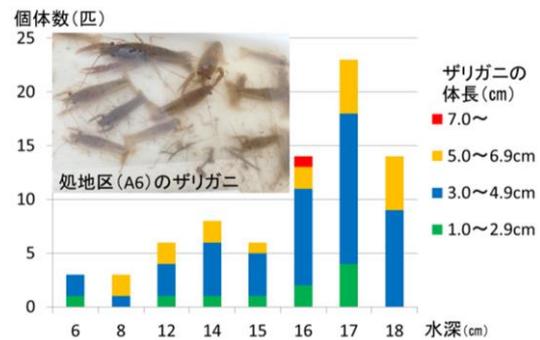


図2 アメリカザリガニの個体数と水深の関係

特に、アメリカザリガニは急激に増殖しており、ヤゴの天敵になりうるので、水深などを調整することで個体数の増加を抑制したい。

- ③ 秋に行ったトンボ調査では、ナツアカネよりも少ないが、アキアカネも飛来し、産卵していることが確認できた。来年度、ヤゴが順調に生育しているか、羽化できるか確認したい。

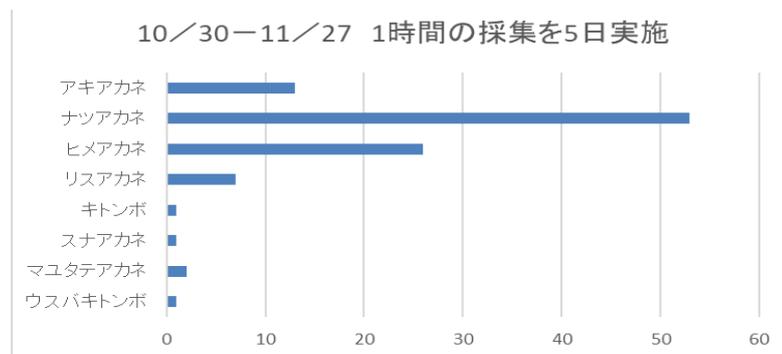


図3 ビオトープで採集したトンボの種類と個体数 (匹)